

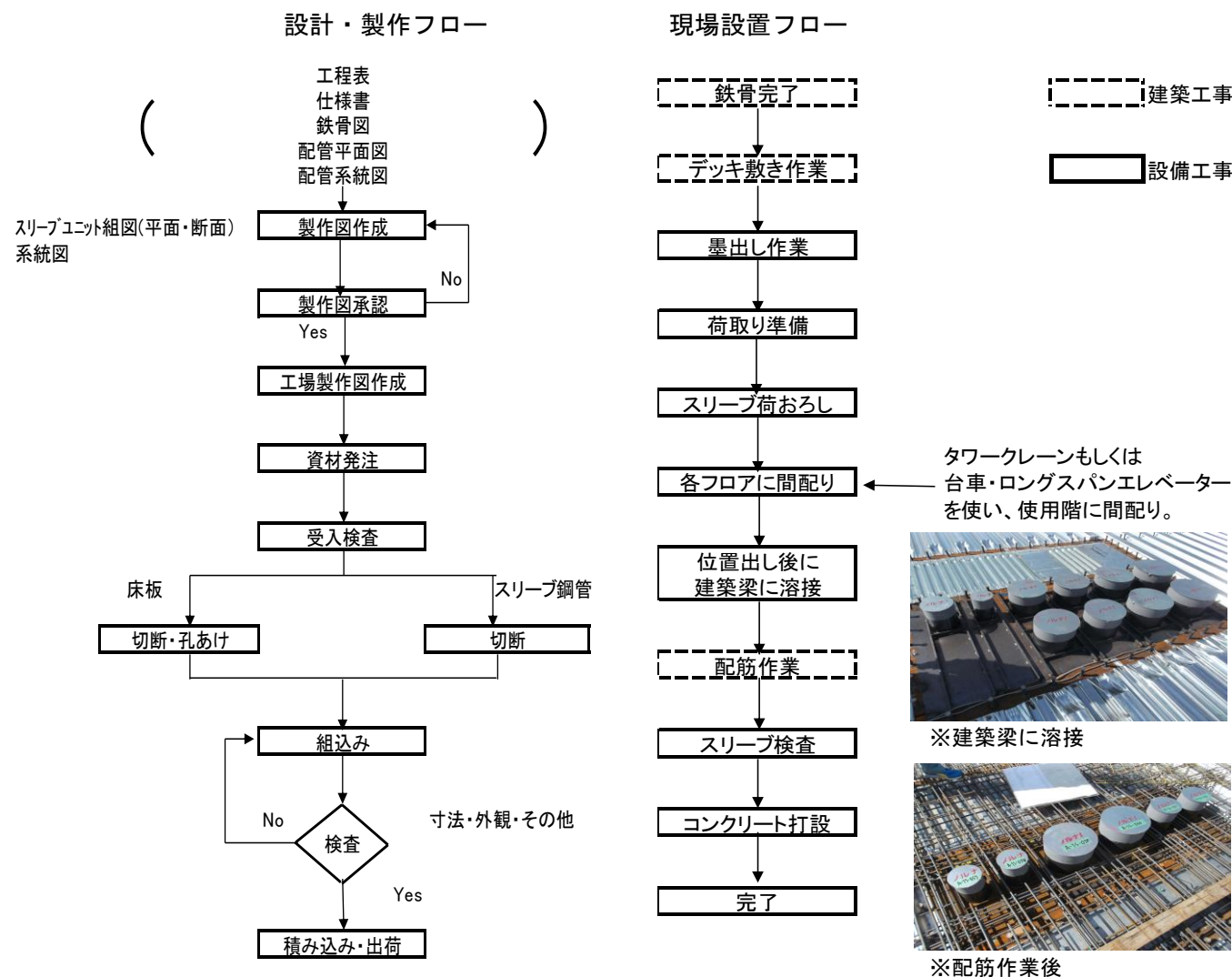
1. 目的・概要

近年、建設業において作業環境の改善、労働者の不足、労働災害、工期短縮、生産性の向上、品質の確保、省資源化、産業廃棄物の低減などの課題がある。

シャフトユニットの工法には大きく、簡易ライザー工法とフルライザー工法があり、両工法とも工場生産による品質確保、現場作業量及び作業人員の削減、作業環境の改善、作業効率化が図れる。

スリーブユニットを利用した簡易ライザー工法を以下に紹介する。

2. スリーブユニット 設計・製作から設置まで



※補足説明

- ①シャフトの配管位置を考慮しスリーブユニットの設計を行う。
- ②同時に建築工程を考慮しながらスリーブユニット、簡易ライザーユニットの搬入時期を確定する。
- ③鉄骨が完了したフロア毎にスリーブユニットを設置する。
- ④設置が完了したフロアはコンクリート打設前に配管を貫通させる事が可能である。

資 料

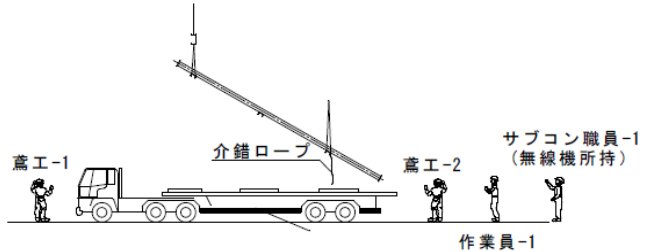
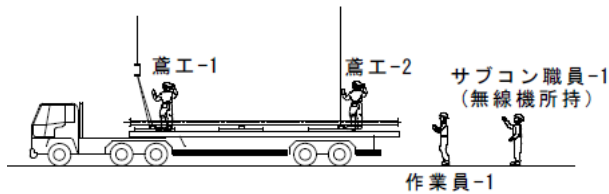
3. 簡易ライザーユニット 揚重作業から設置まで

I. 施工要領

揚重作業から節管終了までの流れは以下となる。

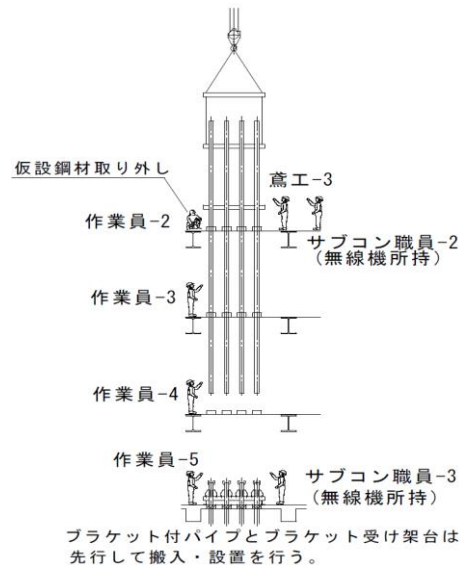
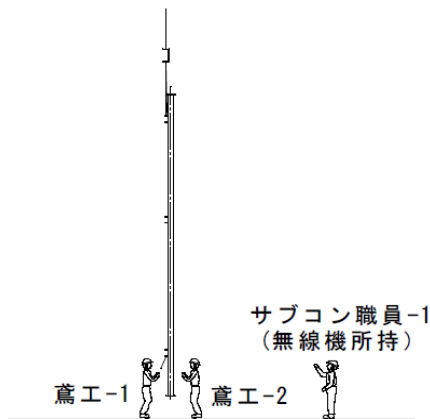
①ユニット最上階側の鋼材を、天秤を使用しタワー
クレーンのワイヤーに下側の鋼材を、合吊クレーン
のワイヤーに取付け4点吊りの準備を行う。

②地切りをし、安全が確認出来たらユニットを
立て起こす。



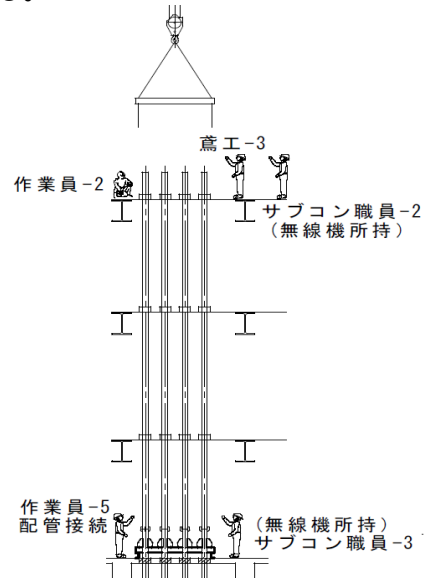
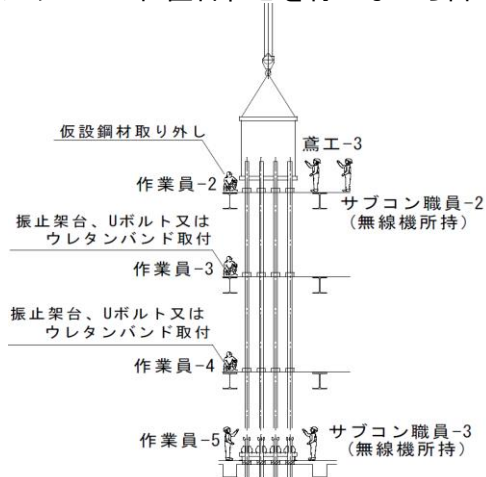
③立て起こしたら、合吊クレーンのワイヤーを外し
シャフト開口に誘導する。

④配管スリーブ位置に合わせ、搬入鋼材を順次
はずしながらユニットを降ろす。



⑤ユニット最下部が下のシャフト付近まで降りて
きたらシャフトの位置合わせを行いながら降ろす。

⑥節管をし、安全が確認できたらタワークレーン
を解放する。



4. 問い合わせ先

株式会社シンワ工業 営業部
TEL:03-3947-0171

担当者 岡田

スリーブ内径範囲内でパイプが動きますが
最下階で節管行っているのでシャフトの落下事故はありません。
※開口またはスリーブ、本設振れ止め、
固定架台につきましては手配願います。